

第4章 今後の課題

第4章 今後の課題

1. 今後の課題

多目的アリーナの施設整備には、関係機関との調整や資金面の確保から詳細な施設設計項目など、多くの段階が含まれる。本基本構想では施設整備に向けた考え方や進むべき方向性について今後の課題を整理する。

(1) 多様な交通手段の整備及び駐車場の確保

スポーツ興行やコンサート等により、短時間に集中する交通アクセスを伴う施設では、周辺の交通に混乱を生じさせる可能性がある。利用者の駐車場、バス等の交通機関の整備、また周辺の駐車場を利用する等、交通負荷に配慮した交通計画が今後の課題となる。

周辺駐車場と連携するシャトルバス用のバスベイ、タクシー等の待機所、キッスアンドライドなどストレスなく利用しやすい交通システムを実現させるため、コザ運動公園内だけでなく、周辺地域との連携も検討すべきである。

(2) 新たな整備手法等の検討

これまでの公的施設では、建設・運営に多大な財政負担を伴うことが多かった。こうした財政負担を軽減するため、すでにネーミングライツの販売や指定管理者制度など負担軽減の対応を行っている施設もある。しかし、優れたコンテンツを提供する施設では、収支を黒字化し自治体の財源となる場合もあり、施設整備および運営について地域の実情にあった公民連携の可能性など新たな整備手法等の検討を行う必要がある。

(3) 周辺地域、付帯産業との連携

アリーナによる経済効果を促進させるには、周辺地域や飲食・宿泊業など、付帯産業との連携が重要であり、特に宿泊施設について、市内の宿泊施設では客室が不足することが予想される。利用者の満足度を高め、地域産業との連携が今後の課題となる。

(4) 関係機関との調整を要する事項

多目的アリーナ施設整備を行うコザ運動公園は、都市公園法に基づき、建築施設の建設可能面積に上限が定められており、公園内に整備できる施設内容や規模を把握し、関係機関と調整の上、諸手続きの検討をすすめる必要がある。

